

令和4年（2022年）11月10日

山内泰樹教授がIEC1906賞を受賞 ～電気・電子技術の国際標準化活動への大きな貢献が評価～

【本件のポイント】

- 山内泰樹教授（視覚情報処理）が2022年度国際電気標準会議（IEC）のIEC1906賞を受賞しました。
- 国際電気標準会議（IEC）において、長期間にわたる電気・電子技術の標準化及びその関連活動に大きく貢献したことが評価されました。



IEC会議にてTC34議長と

【概要】

山内泰樹教授（視覚情報処理／大学院理工学研究科担当）が2022年に国際電気標準会議(IEC)のIEC1906賞を受賞しました。本表彰は、国際電気標準会議（IEC）における国際標準策定にかかわる標準化活動に優れた功績を有する個人を表彰するものです。

山内教授は、2011年以来、IECにおける有機EL照明の標準化活動に従事し、2017年からはIECの技術委員会での議長を務め、標準化活動を主導してくとともに、日本からの有機EL照明に関する国際規格の提案、及び成立に向けて尽力してきました。これらの活動及びIECへの継続的な貢献が認められ、昨年の経済産業大臣表彰に引き続き今回の受賞となりました。

【IEC1906賞について】

国際電気標準会議（IEC）は、電気及び電子技術分野の国際規格の作成を行う国際標準化機関で、100以上の分野に分かれ、世界中から20,000人を超えるエキスパートが規格策定に向けた活動を行なっています。IEC1906賞は、2006年に1906年の創立から100周年を迎えることを記念して、IECの技術活動に関連した電気・電子技術の標準化及びその関連活動に多大な貢献があった個別技術専門委員会の専門家（個別の技術委員会に参加し貢献している人）の業績を称えるものです。本年度は日本からは36名が表彰の対象となりました。

【活動における功績】

国際標準化活動は、ルール形成の一環であると同時に、産業界にとっては市場形成及び環境整備の手段の一つとして国際的に認識されています。日本においても「標準化人材を育成する3つのアクションプラン」（2017年1月策定）等の中で、国際標準化活動を支える人材の育成が重要な施策の一つとして挙げられています。山内教授は、2012年にIECにて発足した有機EL照明の技術委員会に当初から参加しており、2017年からはコンビナー（議長）として、委員会自体が円滑に進捗するように主導し、これまでに6件の国際規格の成立に貢献してきました。そのうちの3件は、日本からの提案です。日本からの提案規格については、プロジェクトリーダーとして、その提案規格が成立するように中心的役割を果たしています。また、現在では成立した規格の整備も重要な活動の一つとなっており、成立した全規格の追補の検討を主導しています。以上のような10年以上にわたるIECでの一連の活動が評価され、この度の受賞へと至りました。

【今後の展望】

有機EL照明の普及は、まだ今後の課題となっています。市場への普及や残課題の解決に向け、さらに日本の技術力がきちんと評価される規格づくりができるよう、今後も努力していきます。

お問い合わせ

学術研究院教授（視覚情報処理）山内 泰樹

TEL 0238-26-3346

メール yamauchi@yz.yamagata-u.ac.jp